

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	甲藤 さち
主な担当科目	楽器研究
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	世界の不穏な社会情勢や日本の不安定な経済事情は、音大の学生生活にすぐさま影響を与えるものではないかも知れないが、何となく将来への不安感を感じながら過ごしている雰囲気伝わってくる中、自分の可能性を知り、今、この恵まれた環境で音楽を学ぶことができている意味、音楽を通じて自分や周りのために活かせる事とは何かを一緒に考える。
2024年の教育に関する自己評価	昨今、更に顕著な違いを見出せるようになってきた一人一人の学生の個性に寄り添い、それぞれのペースやレベルに合わせた指導ができたと思う。AIには絶対にできない表現、作曲家への共感やリスペクト、又、アンサンブルを通して学ぶ共演者との助け合いなどの感性を大切に育てることに重きを置いた授業が展開できた。
2024年のFD活動に関する自己評価	シラバス担当の楽器研究授業の改善計画については、それぞれの楽器の先生方と綿密に連絡を取り合い、毎年最高の演奏と最新の情報を取り入れた授業内容を展開出来ていると思う。ロボット研究や留学生に対する教育の等の研修会には、参加できなかった。レッスン内容の改善のためには、やはり研究領域での活動が必須であると改めて認識した。
授業改善のために取り入れた研修内容	近年は、留学生が増えたという状況もあり、様々な背景を持つ学生の多様性についてのトピックが多いが、音楽を専門に学ぶという進路を選んだ時点で既に多様性が大きいと考え、自分の将来にとって、音楽が社会の中で普遍的に必要とされるのはどんな場所であるのか、音楽を学ぶ事がどういう形で役に立つのかを一緒に考えていく必要があると思う。自家中毒にならない為には、外に目を向けた研究領域での活動を増やし、自分自身の音楽性の充実を図り、最先端の現場を知る事で、学生とのハッピーな学びの時間を過ごす事ができると考え、前向きに取り組むようにした。

2024 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1906 教員名:甲藤さち

1)アンケート結果に対する所見

毎年、担当楽器の講師陣のご尽力により、他の大学にはみられない貴重な講義が提供できている手応えを感じる。音楽の現場で高いレベルでの演奏活動を実際に展開されている先生方が、ご自身の楽器への愛と魅力を伝えようとする情熱は、学生の興味と理解の深さに繋がっている。

また、現役学生によるアンサンブル等のデモ演奏への反響も大きく、彼らが様々なコースの学生の前で演奏する価値の大きさを理解していることも有り難く頼もしく思う。

2)要望への対応・改善方策

実技指導でご多忙な先生方に対し、ご講義やデモ演奏の準備に加えてレジュメの制作までをお願いする事はいつも心苦しいが、試験問題のレベルの高さや、多岐にわたる楽器の種類を考えると、早めの依頼を心がけたい。

コロナ禍におけるオンライン授業が主流だった頃に比べるとパワーポイント等のプレゼンアプリの使用法やパソコンの操作などに普段は馴染みの薄い先生方が多い筈であるので、助手と共に事前の確認準備を行うなどを提案したい。

3)今後の課題

セメスター制の導入による 100 分×14 回の授業で、取り上げる楽器の配分をどのようなバランスにするのか講師陣と慎重に話し合っていて決めていく必要がある。

ピンマイクなどの周辺機器や更に観やすいプロジェクターの活用法などを研究していきたい。

以 上

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1906 教員名:甲藤 さち

1)アンケート結果に対する所見

回答が半数以下なので少し心許ないが、実際にどんどん実力をつけてきている学生や、自分がやりたい事がはっきり表現できる様になってきた学生などの様子からも、レッスンの在り方が受け入れられ、熱意は伝わっていると思う。

2)要望への対応・改善方策

自分自身の健康に気をつけて、それぞれの個性に更に向き合っていきたい。

3)今後の課題

演奏家コースの学生が増えた事もあり、忙しい学生に対しては今まで以上に時間的な工夫やレッスン内容の充実を計る。演奏の質の向上だけに限らず、作曲家や共演者、聴衆に対するリスペクトや、又、自身の生活を律する術など、レッスンを通して共に取り組んだ本気の時間が、学生の将来にどの様な形で活かされるかを常に考える。

以 上